



2019年トレンド予測

自動車領域

1984年創刊 中古車の物件情報を軸にカスタマーのクルマ購入、カーライフをサポート

雑誌

カーセンサー



Carsensor EDGE



ネット

カーセンサーnet 日刊カーセンサー



Carsensor EDGE net



SNS

カーセンサー Facebook



Carsensor EDGE Facebook



カーセンサー twitter



カーセンサー LINE



移動のためだけでなく「もしも」の時にも備える ライフライン（≒電力）としてのクルマ選び

もしもCAR電 (もしもCAR／CAR電)

移動の手段であるクルマは、シェアやリースなどのサービスが勃興しニュースでも注目を浴びている。移動単価を下げる共有サービス以外にも、電動化やコネクティッド、自動運転など、100年に1度の変革期と呼ばれる自動車業界には、世界規模のバズワードがいくつも登場している。一方、国内に目を移すと、各地で頻発している自然災害時に電力供給源やシェルターとしての「移動していないときのクルマの役割」が、しばしば注目されるようになってきている。ハイブリッドやEV車などを緊急時に対する備えとして導入している官公庁も少なくない。

とはいえ、電化技術を搭載するクルマはモーターやバッテリーを積む分価格も上がりやすい。加えて、充電設備に対する不安などもあり、誰しもが「もしも」のためだけに気軽に購入することができる商材ではなかった。しかし、技術普及や生産拡大による低コスト化、また登場から年数が経過することで中古車も含めた選択肢がどんどん広がってきている。2019年は消費税増税により、クルマの買い替えが一気に促進すると予測される1年。自身で災害に備えることがより重要となるエリア部ではとくに、ライフラインの1つという備えの意識も持ちつつクルマを購入する人が増えると推察する。

災害時にクルマの電力を活用した事例

2018年9月、北海道胆振東部地震にて全道停電で復旧めどがつかない中、クルマから自宅へ給電して冷蔵庫やお風呂のボイラー、スマホ充電などに電力を供給
(三菱 アウトランダーPHEV)



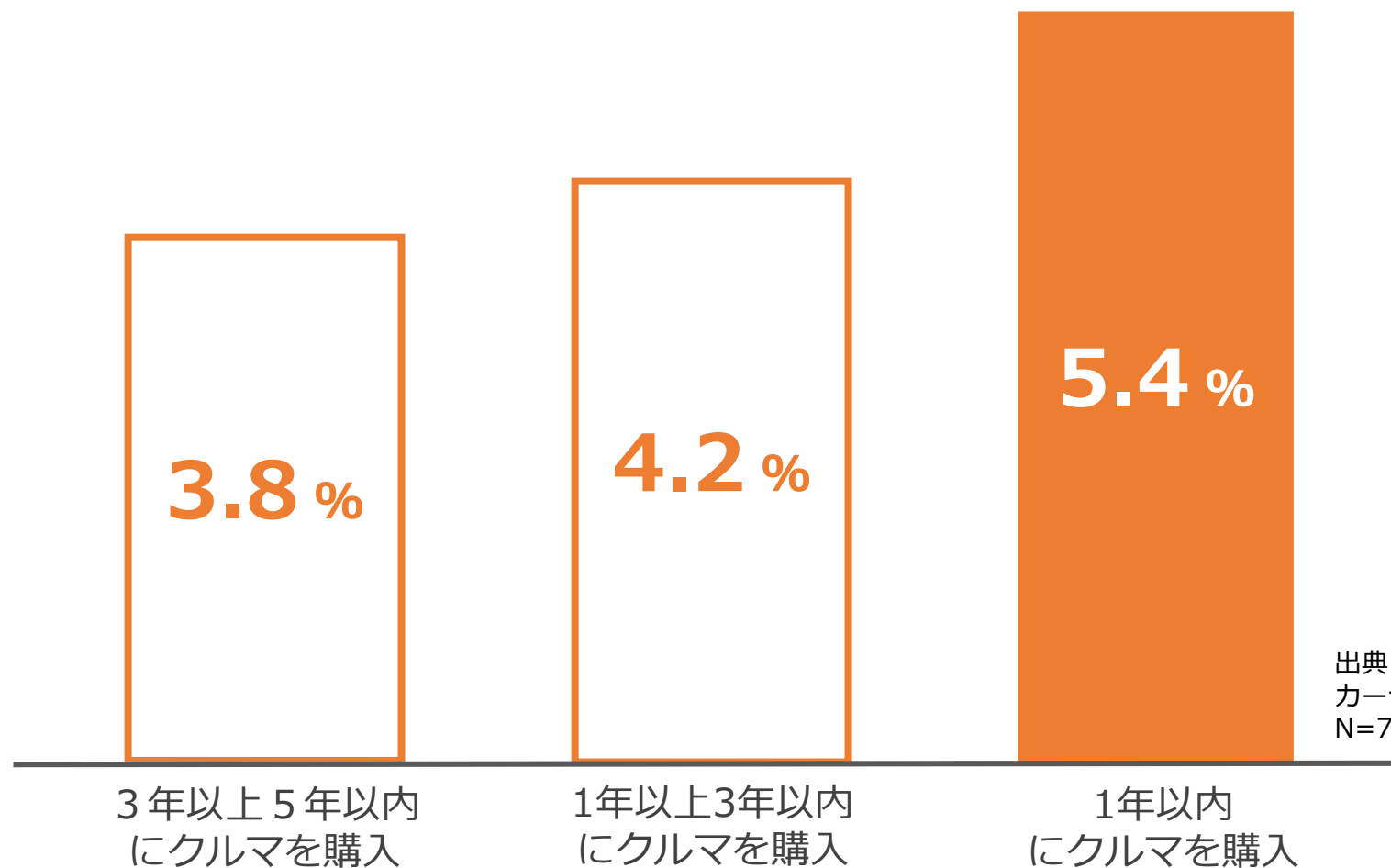
出典：北海道三菱自動車HP
http://www.hokkaido-mitsubishi.com/outlander_phev_earthquake/?dtop

2016年4月、熊本地震の際、避難所における臨時の電力源として仮設住宅の家具づくりなどに車両が貢献
(日産 e-NV200)



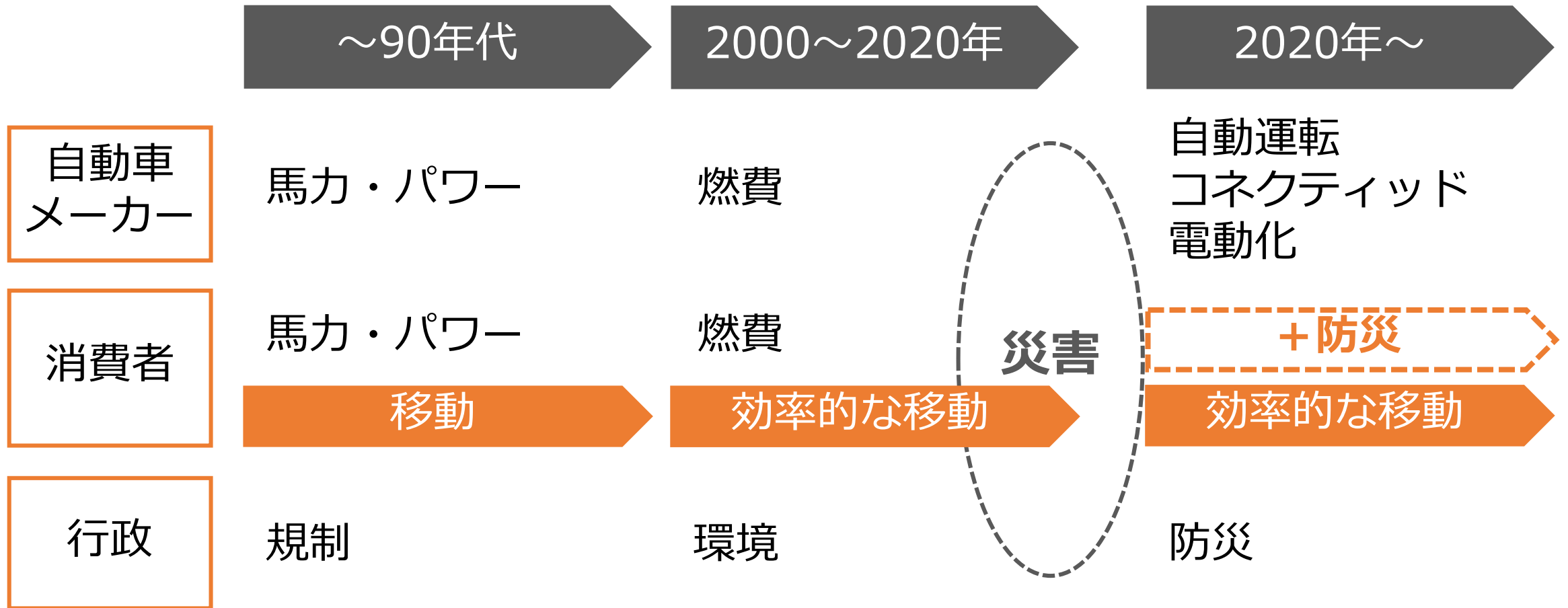
出典：カーセンサー2018年3月号

クルマ選びで「もしもの時の防災」観点を重視する人は 直近1年間で約20人に1人の割合



出典：
カーセンサー独自意識調査（2018年）
N=720

90年代までは「速さ」 00年代は「燃費」へニーズがシフト 環境性能を高めていった結果、クルマが防災性も備えた



被災経験後に「もしも」を考えてクルマを買い替えた 熊本の20代ご夫婦

熊本地震の際に車中泊を経験したことからクルマの買い替えを検討。被災直後、エリアによってライフラインの復旧に差があったため、「もしも」という観点で必要性を感じた機能や装備を重視。

非常時以外にも、出先で気軽に車の電力を使用でき趣味のアウトドアでも遊びの幅が広がった。



出典：日刊カーセンサー https://www.carsensor.net/contents/editor/category_1471/_63176.html

クルマの電力による家電使用事例



災害時の車両活用情報をきちんと提供することで クルマ選びをサポートする北海道三菱自動車

従来はセールスの現場においてタブー視されることもあった被災時の車両の需要。
北海道胆振東部地震をきっかけに販売店のHPに災害関連の特設コーナーを設置。
「もしも」の際の備えとしてのクルマ選びをサポートし始めている



出典：北海道三菱自動車HP <http://www.hokkaido-mitsubishi.com/>

港区と東京トヨペット、練馬区と日産自動車など 自治体が車両を用いて震災に備える取組みも活発に

2018年3月、東京トヨペットが港区に
災害時電源供給車としてプリウスPHVを寄贈。
大規模災害時の機動力や電源供給車として活用



出典：東京トヨペット <https://www.tokyo-toyopet.co.jp/file/special/13601/951/company/dengenkyouyuu.pdf>

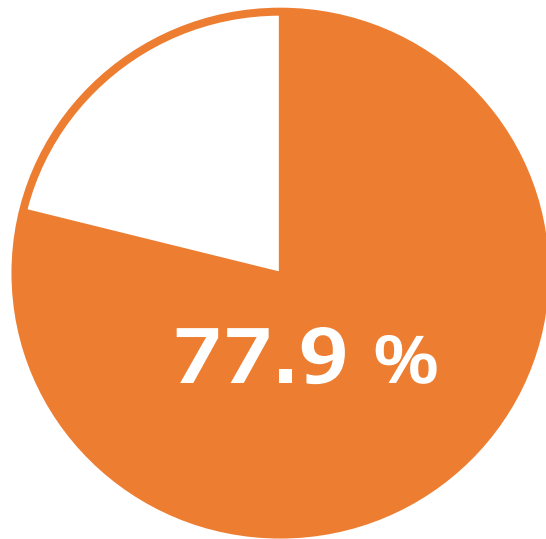
2018年9月、日産自動車と練馬区が
災害時における電力供給に関する協定を締結。
災害時、日産ディーラーにあるリーフ試乗車の無償貸与。
練馬区は日産ディーラーの急速充電器を優先利用可能



出典：日産自動車 <https://newsroom.nissan-global.com/releases/release-860852d7040eed420ffbaebb2203e7bf-180906-01-j?lang=ja-JP>

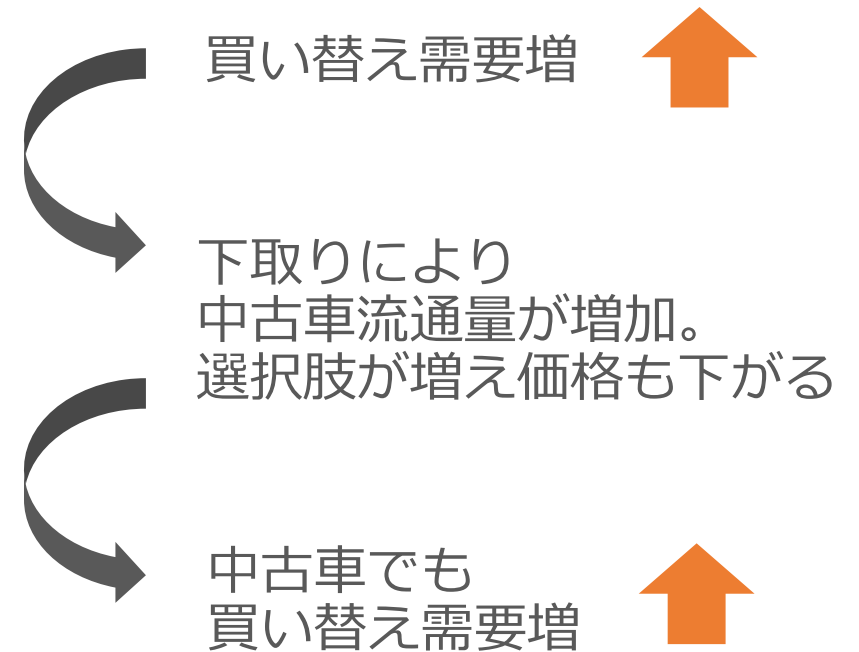
増税時に高まるクルマの買い替え需要 買い替えにより広がるカスタマーの選択肢

2014年の消費税増税時には
直近4ヶ月の購入者の8割弱が増税要因



出典：日刊自動車新聞（マクロミル共同調査）
<https://news.mynavi.jp/article/20140319-a009/>

（参考）新車が売れることで中古車市場も活性化



中古で買える電化技術搭載車は2年間で約1.5倍に 選択肢の増加にともない問合せ数も堅調に増加



出典：『カーセンサーnet』に掲載のハイブリッド・PHEV・EV台数とメール問合せ数（2018年）

移動のためだけでなく「もしも」の時にも備える ライフライン（≒電力）としてのクルマ選び

もしもCAR電 (もしもCAR／CAR電)

移動の手段であるクルマは、シェアやリースなどのサービスが勃興しニュースでも注目を浴びている。移動単価を下げる共有サービス以外にも、電動化やコネクティッド、自動運転など、100年に1度の変革期と呼ばれる自動車業界には、世界規模のバズワードがいくつも登場している。一方、国内に目を移すと、各地で頻発している自然災害時に電力供給源やシェルターとしての「移動していないときのクルマの役割」が、しばしば注目されるようになってきている。ハイブリッドやEV車などを緊急時に対する備えとして導入している官公庁も少なくない。

とはいえ、電化技術を搭載するクルマはモーターやバッテリーを積む分価格も上がりやすい。加えて、充電設備に対する不安などもあり、誰しもが「もしも」のためだけに気軽に購入することができる商材ではなかった。しかし、技術普及や生産拡大による低コスト化、また登場から年数が経過することで中古車も含めた選択肢がどんどん広がってきている。2019年は消費税増税により、クルマの買い替えが一気に促進すると予測される1年。自身で災害に備えることがより重要となるエリア部ではとくに、ライフラインの1つという備えの意識も持ちつつクルマを購入する人が増えると推察する。